



衆議院議員の任期は10月21日で満了を迎えます。つまり、あと2か月以内には必ず選挙が行われることとなります。今回は政治を女性の視点から見てみます。



女性と政治

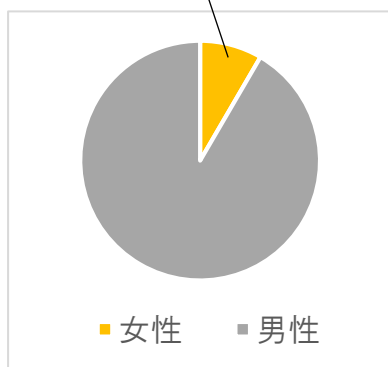


そもそも終戦直後まで女性には参政権がありませんでした。初めて女性が参政権を行使したのは、1946年のこと。約1,380万人の女性が初めて投票をし、また、その時に39名の女性の国会議員が誕生しました。



戦後(1946年)

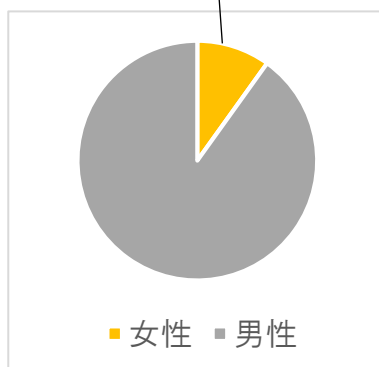
8.4%(39名)



75年後

現在(2021年)

9.9%(46名)



75年も経つけど、あんまり変わっていないね…

政治は男の人が中心でやるものなのか？

日本の有権者の約52%、つまり半分以上を女性が占めています。

しかし、戦後からこれだけの時間が経っても国会議員に占める男女の割合に偏りが生じている現状について、皆さんはどう感じるでしょうか。

クオータ制（一定の比率を女性に割り振ること）を取り入れることで、女性議員の比率を高めるなどの取組みが必要な時期に来ているのではないかと思います。

ちなみに、県と市の女性議員の割合は・・・

長野県議会

12.3%
(7/57人)

松本市議会

35.5%
(11/31人)

有権者の皆さん、投票には行きましょうね！





ガラスの天井

資質や実績があっても、女性やマイノリティなどを一定の職位以上に昇進させようとしない組織内の障壁を指す。

2016年のアメリカ大統領選挙の女性候補者ヒラリー・クリントンが敗北した際に、大統領になることを「最も高く、最も打ち破りがたいガラスの天井」と述べたことから、よく知られるようになった。

ジェンダーにちなんだ映画の紹介

久々にジェンダーにちなんだ映画をご紹介します。

「パッドマン 5億人の女性を救った男」(2018年、インド)をご存知でしょうか。

日本ではコロナ禍での「生理の貧困」が叫ばれていますが、インドにおいてまだ生理用ナプキンが高額で一般に普及していなかった頃、愛する妻のために、手ごろな価格で安全に使えるナプキンをいちから開発すべく、奮闘する男性のストーリーです。

インド映画独特の音楽と踊りにも引き込まれること間違いなし♪ 是非一度、ご覧ください。



新着図書のご紹介



パレア松本には図書コーナーがあり、どなたでも自由に本を読んだり、借りたりすることができます。今月も2冊をご紹介します。



『多様な社会はなぜ難しいか』(水無田 気流著、日本経済新聞出版、2021年) 日本経済新聞女性面の連載コラムを大幅に加筆・修正した本で、社会学者が具体的なデータを示しつつ、日本の多様性に対する鋭い視点を投げかけます。6年位前の記事もありますが、ほとんど状況が変わっていないのが悲しいところ。各テーマは2ページ程で、忙しい日々でも読み進めることができそうです。

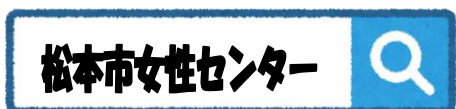
『事実婚と夫婦別姓の社会学』(阪井 雄一郎著、白澤社、2021年)

皆さんは事実婚や夫婦別姓についてどのくらい理解しているのでしょうか。昨年12月の国の「第5次男女共同参画基本計画」の策定の際に最も話題となったのが、夫婦別姓の議論でした。歴史的、法的な議論を洗い出し、論点をまとめている良書です。専門書で難しいですが、一筋縄ではいかない状況が良くわかんと思います。



このニュースレターは、松本市公式ホームページでも見ることができます

Facebook もやっています！



<編集・発行>

松本市 人権共生課 (松本市女性センター)

〒390-0811

松本市中央 1-18-1 Mウイング3階

TEL 0263-39-1105 /FAX 0263-37-1153